浄土宗教師資格の取得に際して

浄土宗教師(少僧都・輔教・擬講)資格を取得希望の方へ

◆「浄土宗教師資格」は少僧都・輔教・擬講の資格取得を目的とし、本科(学部)の仏教学部仏教学科浄土・仏教コースへ入学され「科目別履修登録」(p.34参照)を行った方を対象とします。
◆履修科目ならびに科目ごとの履修開始年次等の詳細は、入学後、補助教材『履修要項』で確認してください。
◆諸経費・スクーリング受講日数の目安については、p.39を確認してください。
◆スクーリングの開講日程については、入学後、補助教材『スクーリングのしおり』で確認してください。
◆3年次編入学の場合、前期入学の方は入学後直近(5月)の科目別履修登録期間に当該資格課程の登録を行なった場合に限り、最短履修期間での卒業が可能です。後期入学の方は、入学後直近(11月)で科目別履修登録を行なった場合でも、伝宗伝戒道場入行の日程等により最短履修期間での卒業はできませんので、入学期には十分注意してください。

【入学までに】

入学までに以下の準備が必要です。

師僧を決める → 得度式・度牒授与 → 僧籍登録を行い宗徒となる

僧籍登録後、僧籍登録証明書または僧籍登録証の写しを用意しておいてください(入学後、科目別履修登録手続の際に提出が必要です)。
なお、大学に登録される氏名と僧籍登録上の氏名が異なる場合は、改名許可の旨が証明された書類の写しも必ず必要となります。

※僧籍登録に関する全般については、浄土宗宗務庁教学局にお問い合わせください。

【ガイダンスの実施(科目別履修登録後)】

1年次入学された方は2年次に、2・3年次編入学された方は入学年に、資格取得希望者対象のガイダンスを実施します。
実施予定の日程は次の通りです。詳細を含めガイダンスの案内を、科目別履修登録者に対し個別に通知しますので必ず出席してください。

前期登録者:6~7月(予定) **後期登録者:1~2月(予定)**

【実践仏教学・法式実習履修に向けての心構えと準備】

「浄土宗教師資格」の課程は、浄土宗教師の資格を志す方に対し、少僧都としてふさわしい学生(がくじょう)の養成を目的としています。なかでも、資格必修科目となる「実践仏教学1」「実践仏教学2」「法式実習1」「法式実習2」「法式実習3」「法式実習4」の6科目の履修に際しては一般的な講義とは異なり、僧侶としての意識を培うための授業であるため、特に事前の心構えと準備が必要です。

1.実践仏教学および法式実習の履修には、平素の基礎的な学修と研鑽が求められます。したがって、『日常勤行式』などは師僧の指導のもとに日頃から研鑽しておいてください。
2.実践仏教学・法式実習の指導内容は基礎と応用に分けられ、これらを段階履修します。「実践仏教学1・法式実習1」では、浄土宗法式の基礎を修得することを目的とし、「実践仏教学2・法式実習2」は、先に「実践仏教学1・法式実習1」で修得した法式の基礎能力を活用、展開して、諸種の法要儀式の解説、行法の向上をはかり、差定の応用能力等総合的な法式の能力を身につけることを指針としています。
3.「法式実習3・法式実習4」では、「実践仏教学1・2」「法式実習1・2」で修得した能力を振り返りながら、さらに理解を深め、伝宗伝戒道場への入行を目指します。
4.師僧の指導のもとに、『浄土宗法要集(上巻)』の「威儀」「犍稚」のところを熟読しておくことが必要です。
経文の音読法は、『浄土三部経』ならびに『浄土宗勤行法』を声を出して熟読し、経文の句読点で区切りながら正しく読む研鑽が必要です。
5.白足袋、襦袢、白衣、腰紐、帯などの被着脱の作法についても十分に体得しておいてください。

【道場への入行にあたっての留意事項(通信教育課程「実践仏教学」「法式実習」入行のしおりより一部抜粋)】

1.期間中は「佛教大学浄山道場」での講義・宿泊となります。※居室は1室2名
2.頭髪は2ミリ以下の丸刈りにて登嶺すること。※女性は実習の邪魔にならない長さとする
3.道場内では法衣・作務衣を着用し、登嶺時・帰宅時を除いて私服の着用はできない。
4.事前の健康管理には充分注意し、良好な体調で全日程受講すること。
5.入れ墨(タトゥーを含む)をしている者は、伝宗伝戒道場への入行が禁止されているため、本学道場もそれに準じる。